

発売中及び近日発売のすべての公演情報

EVENT CALENDAR

PLAY

6.22 fri
7.1 sun
**さいたまゴールド・シアター第1回公演
『船上のピクニック』**
◆6月22日(金)～7月1日(日)《全9公演》
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
詳細はP.6～7にて

7.14 sat
松竹大歌舞伎
◆7月14日(土) 昼の部 夜の部
◆熊谷会館
詳細はP.20にて

8.9 thu
9.2 sun
**蜷川幸雄演出 見世物祝祭劇
『エレンディラ』**
◆8月9日(木)～9月2日(日)《全27公演》
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.8～9にて

10.4 thu
10.21 sun
**彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾
『オセロー』** NEW
◆10月4日(木)～21日(日)《全18公演》
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.10～11にて

DANCE

7.28 sat
7.29 sun
**サシャ・ヴァルツ&ゲスト
『Körper ケルバー (身体)』**
◆7月28日(土)～29日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場大ホール
詳細はP.12～13にて

MUSIC

7.7 sat
**ニューヨーク・フィル・ブラス・
クインテット**
◆7月7日(土) 開演 16:00
◆彩の国さいたま芸術劇場
音楽ホール
◆チケット(税込)
一般4,500円
学生1,500円
メンバーズ
一般4,050円


9.8 sat
**ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.2 イリヤ・ラシュコフスキイ** NEW
◆9月8日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.14にて

9.30 sun
宮本益光バリトン・リサイタル
◆9月30日(日) 開演14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場
音楽ホール
◆チケット(税込)
一般3,000円
学生1,000円
メンバーズ 一般2,700円


10.19 fri
NHK交響楽団 NEW
～グリーグ没後100年・
シベリウス没後50年記念～
◆10月19日(金) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.17にて

10.27 sat
**白井光子(メゾソプラノ) &
ハルトムート・ヘル(ピアノ)
リートデュオ・リサイタル**
◆10月27日(土) 15:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆チケット(税込)
一般4,000円
学生1,500円
メンバーズ 一般3,600円


11.10 sat
**イエフィム・ブロンフマン
ピアノ・リサイタル** NEW
◆11月10日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.15にて

11.17 sat
**小山実稚恵 ピアノ・トリオ
夢の響演II** NEW
◆11月17日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.15にて

COMMUNICATION

5.26 sat
+
6.9 sat
**光の庭
プロムナード・コンサート**
◆5月26日(土)、6月9日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
詳細はP.20にて

6.17 sun
**NEW 嵐川幸雄公開対談
NINAGAWA 千の目 第9回**
歌手・作曲家・俳優 宇崎竜童 × 演出家 嵌川幸雄
◆6月17日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.19にて

6.22 fri
**埼玉会館ランチタイム・コンサート
第1回 東京交響楽団メンバーによる
木管アンサンブル**
◆6月22日(金) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.16にて

7.16 mon
**「みんなのオルガン講座
～Organ for ALL～」
基本コース受講生発表会**
◆7月16日(月・祝)
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
詳細はP.20にて

7.19 thu
**彩の国さいたま芸術劇場
ランチタイム・コンサート
村治奏一 ギター・リサイタル**
◆7月19日(木)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.17にて

8.3 fri
5 sun
8.5 sun
NEW クラウン・ワークショップ
◆8月3日(金)～5日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
詳細はP.18にて

8.5 sun
**埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド！**
◆8月5日(日) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.16にて

9.4 tue
**NEW 埼玉会館ランチタイム・コンサート
第2回 アンサンブルクラカルテ
(N響メンバーによる室内楽グループ)**
◆9月4日(火) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.16にて

9.29 sat
NEW 宮本益光ふれあいコンサート
◆9月29日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
詳細はP.20にて

9.29 sat
NEW クラウンのいる風景
◆9月29日(土) 詳細はP.18にて

AT RANDOM

7.8 sun
+
9.16 sun
源氏語り54帖
◆第38回 7月8日(日) 「幻」
◆第39回 9月16日(日) 「雲隠」
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
詳細はP.20にて

7.13 fri
**彩の国さいたま寄席
四季彩亭 ～林家木久蔵・きくお**
◆7月13日(金)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
詳細はP.20にて

CINEMA

6.22 fri
6.24 sun
彩の国シネマスタジオ 「ゆれる」
◆6月22日(金) 23日(土) 24日(日)
23日(土) 10:00～12:10 13:00～15:10
16:00～18:10 19:00～21:10
※6/23, 13:00 上映後にアフタートークあり!
※6/22, 13:00 は、音声ガイドつき上映です。
◆監督:西川美和
◆出演:オダギリ ジヨー
香川照之
伊武雅刀
木村祐一 ほか
(2006年/日本/119分)

7.13 fri
7.15 sun
**彩の国シネマスタジオ
『監督特集 ケン・ローチ』**
◆7月13日(金)～15日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.20にて

8.10 fri
8.12 sun
NEW 彩の国シネマスタジオ 『ひまわり』
◆8月10日(金)～8月12日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.20にて

団員紹介

森下隆一 (もりした りゅういち)さん 78歳

長年、声楽をやってきた経験を活かし、2回目の中間発表では舞台の転換で登場し、歌を唄って、観客を芝居の世界へ誘う役を担った森下さん。「今まで覗いてきたホールとは違って、公演した（彩の国さいたま芸術劇場）大稽古場は狭いし、お客様は近いので、声が響かなくてとても唄いにくかったです」。発声には自信があったが、ましてやセリフはやはり歌とは違う。「詰尾まで声を通すのがどれだけ大変なことが実感しています」。

- 1.半世紀の間、声楽にのめり込み、男声合唱を中心に日本の歌曲、ロシア民謡、イタリアの古典などバリトンで唄って来たが、役者としての訓練を受けることで歌に磨きをかけることができればと挑戦した。歌は語るようにと言われています。
- 2.今まで経験したことのない芝居の世界で貴重な多くのことを学びました。
- 3.セリフに思いを込み、齢を重ねた、それにふさわしい演技を目指したい。
- 4.1年間の稽古の成果を出したい。



団員のみなさんへの質問

- 1.入団の動機
- 2.入団後の1年を振り返って
- 3.今の自分の課題は？
- 4.本公演への意気込み

森 安恵 (もり やすえ)さん 64歳

実業の世界で長年活躍してきた森さん。「私は人生のその時その時で必要な役割を演してきたと思っています。そういう経験を演技に生きかすこと少しあわってきました」。

- 1.蜷川さんの立ち上げの主旨に100%共鳴した事と未知の世界で新たな挑戦をしてみたかった。
- 2.当初1ヶ月は通うだけで必死でしたが、少し馴れてくると新しい仲間たちとのレッスンの日々に時間が経つのが早く感じられた。稽古で蜷川さんは「ディスコミュニケーション」「セリフの言い方がバカみたい」「下手くそ」と痛打を浴びつらし。でも2回目の中間発表では全体の中で、自分がどう動くかを学び、舞台はスタッフを含めて皆で創造するのだということを実感しました。
- 3.劇場の隅々まで声を通すこと。自然なセリフ廻しと存在感で役を演じること。
- 4.日常会話が綾なず難しい岩松了作品を蜷川マジックとスタッフの方々に支えられ、お客様に喜んでいただける舞台にするために、団員皆と一緒に懸命やりたいと思っています。

渡邊杏奴 (わたなべ あんぬ)さん 65歳

カラオケに行っても唄わないほど恥ずかしがりやだった渡邊さん。が、入団後半年ほどで、「これではいけない。もっと恥をさらさないと、一步も前に行けない」と思い、蜷川の前で歌を唄った。「あれは私にとって通過儀礼でした」。

- 1.「時」が私の背を押してくれたとしか言いません。ちょうど初孫が誕生して数日後に新聞紙上に募集の記事を見つけました。私が暇すぎると娘を甘やかすと言うのも動機ですが、蜷川幸雄さんだった事が決定的でした。
- 2.芝居をつくる側に立ってみたのは初めての経験でしたが、蜷川さんはじめ、多くのスタッフが芝居をつくりあげていく緊張感溢れる過程を拝見できたことは感動です。「趣味ではなく、カルチャーでもなく、プロとして」と蜷川さんがおっしゃった意味が、今理解できるように思います。
- 3.声のボリュームをあげること。役柄に感情を移入してセリフに反映させること。そして自分の素を晒すこと。
- 4.健康の維持。芝居は登場人物全員が一丸となって成り立つもの。どんな役であれ全うしたいと思います。

© 山下恒徳

吉久智恵子 (よしひさちえこ)さん 61歳

演技の経験はまったくなかった吉久さんは、経験者も多い団員の中で最初はとまどいがあったという。が、2回目の中間発表会で蜷川に「この時間（舞台の上で演じる間）はどう使ってもいい」と言われたことで吹っ切れ、自ら考案した“お祓い婆”役を伸び伸びと演じた。吉久さんの頑った「変身」は着実に進行中のようだ。

- 1.38歳で営業の世界に飛び込み、それから23年間。家族の犠牲顧みず猪突猛進で営業したが、60歳という区切りで「変身」したいたく願うようになった。
- 2.5月末、もう一人で生活できないという義父と同居を始めた。仕事関係で息子家族が東京に住むようになり、父と初孫とレッスンと忙しく、営業とはまた違った緊張感を必要とされていた。
- 3.いつまでも初心者マークはつけていない。勉強したい。彩の国さいたま芸術劇場の中には、見るもの、聞くもの、すべて触っていただきたい。触れていて感性を高め、これから的人生、違う自分を見つけていただきたい。
- 4.感謝して「変身」。思いっきりトライです!

宮田道代 (みやた みちよ)さん 58歳

20歳から2年間、劇団の養成所にいて以来の演劇への挑戦。「当時、蜷川さんのいらした『青俳』は気になる劇団で、その後の『櫻社』もいいなと思ってスタジオ公演も2本観ています」。それから40年近く経って、その蜷川に指導を受ける立場になるとは、誰も想像もしなかったに違いない。そのことに喜びつつも、今はただただ蜷川の演出の難しさに苦悶する日々だ。「蜷川さんの要求は簡単なようでいて、本当に難しい。役のセリフや行動がなぜ出てくるのかを考え抜いた上で、それを演じるために自分の記憶の中からあらゆる要素を抜き出して、それを再構築しなければダメだと痛感しています」。2回の中間発表を観た家族は、宮田さんの演技に各々35点、60点とづいた。さて本公演は何点つけてくれるだろうか。

- 1.すっかり忘れていた思いが頭の中を駆け巡る。ウジウジ悩んでいる私の背中をドンと押してくれた夫に感謝。
- 2.日々、24時間、自分の為だけに使える至福。
- 3.言い訳をしない事。4.大切に、丁寧に演じたい。